



宿南地区 水害対策促進期成同盟会 総会開催

6月24日（火）ふれあい倶楽部ホールに於いて、令和7年度宿南地区水害対策促進期成同盟会総会を委員27名中26名出席（委任状5名）、養父土木事務所長をはじめ来賓8名をお迎えして開催しました。門前区池田孝之様に議長お願いして、議案第1～5号まで審議していただき、賛成多数ですべての議案が可決承認されました。議案第3号新役員を報告します。

【令和7年度宿南地区水害対策促進期成同盟会役員】

役職名	氏名	備考
会長（理事）	小田垣 重作	門前区長
副会長（理事）	太田垣 均	奥三谷区長
副会長（理事）	維田 浩之	口三谷区長
会計（理事）	西田 毅	川東区長
理事	宿南 正樹	寄宮区長
理事	川瀬 利昭	町区長
理事	池田 浩	川西区長
理事	多田 勝俊	青山区長
監事	池田 哲彦	
監事	渡邊 雅之	



養父市体力測定会

6月22日（日）今年度の八鹿会場は宿南小学校体育館で開催されました。6月～10月にかけて市内4会場で行われます。対象は小学生以上の養父市民です。小学生～64歳、65歳以上と2つに別れ、測定項目は共通項目の握力・上体起こし・長座体前屈。64歳以下は立ち幅跳び・反復横跳び・20mシャトルラン。65歳以上は開眼片足立ち・10m障害物歩行・6分間歩行・ADL（日常生活活動アンケート）でした。測定会参加者は25名でした。今回参加できなかった方は別会場で参加してみてください。



文化部会を開催しました

6月12日（木）第1回文化部会を開催しました。年間事業計画はすでに決まっておりますので、盆踊り大会が中心に話し合いが行われました。内容、担当、準備物、時間割などが決まりました。開催案内のチラシは7月に配布されます。多くの皆様の来場をお待ちしております。なお、今年度はやちゃ踊りの練習会もあります。



身近で見られる植物④⑧

ネムノキ〈マメ科〉

以前、祖母から、「コウカンボウの花が咲いたら、小豆を播かなあかんのや。」と聞いていました。

コウカンボウとはネムノキのことで、別名「合歓木」ゴウカンボクが訛ってコウカンボウになったのですね。

葉は羽状複葉で、夜になると葉が閉じて眠ることから、そう名付けられました。



野山の植物の花の咲く時期は、農業と深い関係がありますね。

この記事を読む頃には、もう花は散っていますが・(^_^;)



奉仕作業実施

6月15日(日)ふれあい隊・花水木の会の皆さんに雨の降る中、奉仕作業をしていただきました。広場や周辺草刈り、植木の剪定、花壇の花の植え替えで夏の花に変わりました。

コリウス・マリーゴールド・ベゴニア・日日草が咲いてます。見に来て下さい。



お知らせ

7月20日(日) 参議院議員選挙投票日

7月21日(月祝) そうあんの里 夏のつどい

7月22日(火)～8月22日(金) 夏休みラジオ体操(別紙 チラシ配布)

7月23日(水) 夏休みこども書院塾

8月7日(木) 第2回体育部会

宿南やちゃ踊り練習会(別紙 チラシ配布)

8月14日盆踊り大会(別紙 チラシ配布)

草庵先生紹介



日記 77



平野国臣(捕縛されている2人のうちの左側)は仲間の横田友次郎と共に円山川を下って豊岡に護送された

宮崎和夫さん作

生野の変のことを聞いて、草庵は青谿書院から出ていった北垣晋太郎(国道)たちのことも心配だった。「宿南康次郎、恒次郎来る。正義党の回状を持って来る。豊岡藩の舟木多宮と豊岡に行く。この夜は舟木氏宅に泊まり、猪子氏のところにも行く」(文久3<1863>年10月13日)

これは生野の変のあった翌日の日記。「正義党の回状」とは、生野代官所を襲撃した総帥澤宣嘉の名前で周辺の農民らに配布された趣意書だろう。しかし、これでは情勢は詳しく分からない。草庵は豊岡藩から来ている舟木を伴い豊岡に出かけた。そこでかねて親交のあった重臣たちに会い、少しでも詳しいことを知ろうとしていた。「今日、塾生3人が私を迎えに来る」(同月15日)

2日後の10月15日、豊岡まで塾生がわざわざ草庵を迎えに来た。この日は、生野の変の中心人物で逃走していた平野国臣と一緒に行動していた仲間の一人と共に、豊岡藩の追手に捕らえられたのだ。場所は、八鹿村上网場(現・養父市八鹿町上网場)の船着き場付近の宿屋であった。塾生たちも草庵のいない書院では何かと不安で迎えに来たのだろう。捕らえられた平野は、円山川を下っていったん豊岡藩に連れて行かれてから京都に送られ、後に新選組によって切られた。

代官所襲撃計画の中心にもいた北垣晋太郎は、襲撃時には上層部と対立していた。

襲撃後は実家の能座村(現・養父市能座)に帰って自刃しようとしたが母に止められ、その後鳥取藩、江戸、長州藩にと身を隠していた。

北垣と共に青谿書院を出た進藤俊三郎、西村哲二郎は直接には襲撃の現場にはいなかった。京都に出向き、武器弾薬の調達をしていたのだ。生野の変後、2人は長州藩などに逃れて討幕運動に参加した。進藤(後に原六郎と改名)は明治になって欧米に留学し、帰国後は銀行経営や鉄道事業などに尽力した。西村は、長州藩で活動していたが意見の違いなどから自刃した。

生野の変は参加したものたちにとっても、それからの生き方を大きく変えるものであった。

池田草庵先生に学ぶ会